

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 フタール岸和田		
○保護者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年2月17日		～ 令和7年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月21日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士や保育士等の有資格者を複数配置し、それぞれの視点から多角的に分析することでより専門性の高い児童発達支援計画の作成を行っている。	アセスメントを通じて利用児童の課題や保護者のニーズを明確にし、児童発達支援計画書を作成している。支援方法や内容については、専門性の高い知識と技術を用いた提案を行っている。	今後も定期的に計画の見直しを行い、保護者との共通認識を図りながら支援していく。
2	利用児の「やってみたい」という思いを尊重し、その気持ちに寄り添った支援の提供を行っている。また、就学や放課後等デイサービスへの移行に向けた個別課題を強化している。	外出プログラムやクッキングなど、利用児の意向を踏まえたプログラムを定期的実施している。 就学や放課後等デイサービスへの移行を視野に入れ、学習の土台となる認知機能の強化をねらった個別課題やひらがな、数字の学習を個々の能力に応じて適宜取り入れている。	今後も継続して実施できるようプログラムの立案、調整をスタッフ会議等で行っていく。 子どもの現状や保護者のニーズを踏まえ、必要に応じて就学に向けた学習支援を行っていく。
3	保育所や幼稚園をはじめとした関係機関、保護者との密な連携・情報共有を行っている。	送迎時等、日常的に保護者や園の職員等と利用児の様子について情報共有をおこなうことで利用児童の現状把握に努めている。また、その中から出てきた課題やニーズに関してスタッフ間で共有し、支援方針や内容について適宜検討している。	・モニタリング時以外にも必要に応じて保護者や関係機関の職員との面談の場を設定し、さらに必要な場合には保育園等への訪問も今後検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通報訓練や応急救護の講習等、事業所内のスタッフに向けた訓練や研修が不十分であると感じる。	災害等を想定した避難訓練は定期的にご利用児童とスタッフで行っているが、消防等と連携したスタッフに対する専門的な訓練(AEDを使用した救命処置および心肺蘇生等)の定期的な実施まで至っていない。	朝からの利用児がいない日に訓練を設定すること、子どもの支援にあたるスタッフと訓練に参加するスタッフを分けて実施すること、支援後の時間を使うことなど今後の訓練実施に向けて検討していく。地域の消防等と連携を図り、スタッフの防災意識の向上を目指していく。
2	利用児童の家族やきょうだいが一緒に参加出来るようなイベントについて、定期的な企画及び実施に至っていない。	昨年度はきょうだいや保護者も参加可能な「夏祭り」イベントを企画・開催し参加者には好評をいただいている。しかし、当該イベントの企画及び開催についてはまだ明確には構造化されていない為、定期的な開催には至っていない。	祝日や長期休暇を活用し、きょうだいや保護者が参加しやすい日程を調整する。季節ごとのお祭りやイベントなど企画から開催までを構造化することで定期的な開催を目指したい。きょうだい交流を積極的に行っていきたい。
3	子どもの午睡専用の部屋が確保できていない。	月齢や発達段階に応じて、必要な利用児童については午睡の時間を設けているが、現状はパーテーションを用いて他の活動とのエリア分けをしてスペースを確保しているため、午睡に適した環境とはなっていない。	相談室兼静養室の配置や機能を再考することで、午睡に適したスペースを確保していきたい。